

## フリーアドレスとサンダース軍曹

高 14 期 住吉 正勝氏 (ピーエム・アライアンス株式会社 代表取締役)



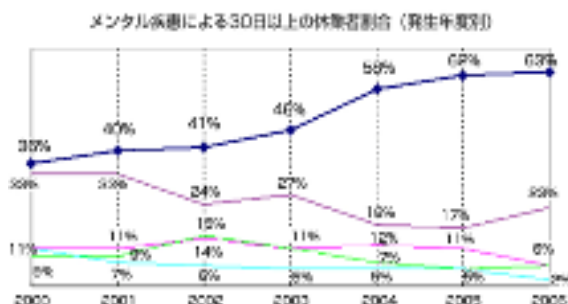
「フリーアドレス」ってなに？ ご存知ない方のために、簡単に説明します。

朝、会社に出勤した時、自分の固定席はなく、どこに座って仕事をしても良いという レイアウトスタイルを「フリーアドレス」と言います。90 年代、世は情報化時代。ノートパソコンさえあれば、“どこでもオフィス”“いつでもオフィス”という言葉が流行らせたのは、コーネル大学のベッカー教授でした。

日本でも話題になり、IBM他の企業でフリーアドレスが大はやりになりました。

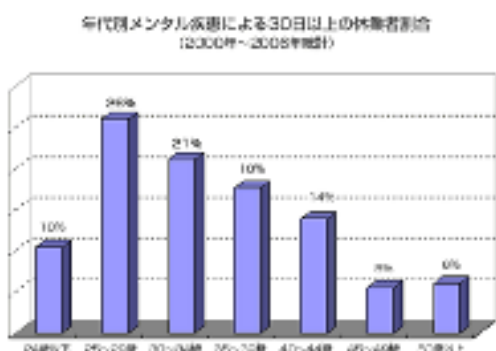
経営者も、外で仕事をする営業部門を中心に「100 人いても座席は 50 席で良いので、オフィスコストが大幅に削減される」と大喜びで導入しました。フリーアドレスは、今やIT企業やコンサルタント会社では当り前のレイアウトスタイルです。

さて、下の図表は、2000 年代に入って、メンタル疾患(いわゆるうつ病)による休業者が急増していること、また、20~30 代の若者に蔓延していることを表しています。



90 年代初頭、バブルが弾け、リストラが当り前になりました。若い人達も、「会社は当てにならない。専門性を身に付けよう」と考え始めました。

日本の伝統的な年功序列や終身雇用が崩れ、「成果主義」の美名のもと、自分の実績さえ上げれば良いという風潮になりました。また、「人材派遣」も一般化してきました。多くの職場で、コミュニケーションが悪くなり、お互いに協力し合う気持ちが無くなってきました。



いわゆる「不機嫌な職場」、「職場のタコソボ化」が進んできました。

追い討ちをかけるように、上記したフリーアドレスが流行り、丸一日、ひどい時には丸一週間、管理者が部下と顔を会わすことが無いという状況が一般化してきました。いわば、「管理の放棄」です。これらが、若者にうつ病が蔓延する原因の一つと考えられます。

(＊図表上：青線がメンタル疾患・資料は上下とも株式会社アドバンテッジリスクマネジメントによる)

実は、私は八尾高校卒業後、大学を経て、昭和42年、オフィス家具メーカーのイトーキに入社。縁あって、平成6年、日本ファシリティマネジメント協会に出向し、オフィス環境整備のコンサルタントの道を歩き始めました。

平成14年1月に脱サラし、オフィス環境整備のコンサルタント会社ピーエム・アライアンス(株)を設立しました。

数々のオフィス環境整備の仕事をしてきて、いかに環境が大切かを痛感し、クライアントにも説いてきました。

単なるオフィスデザインだけでなく、人と人とのコミュニケーション、特に、管理職あるいは先輩の部下や後輩への接し方がいかに大切かも説いてきました。

時代の趨勢として、今後ますます合理的で自由度の高い仕事環境が求められて行きます。今さら年功序列や終身雇用を復活させることは出来ません。成果主義やフリーアドレスの流れを止めることも出来ません。

そうなればなるほど、管理の仕方、精神面のフォローが重要になってきます。

以前、テレビで「コンバット」という戦争ドラマが評判になりました。主人公のサンダース軍曹は、部下の面倒見が良く、身を挺して部下の危機を救う姿が見ている人の心を打ちました。

今、職場に必要なのは「コミュニケーション」や「お互いに協力し合う気持ち」であり、「ありがとう」「よくやった」といった感謝や賞賛の言葉ではないでしょうか？

それには、職場にサンダース軍曹のような人を増やすことが大事ではないでしょうか？

そして、少しでも若者の犠牲者を減らしたいものだと思っています。